

# 日産自動車九州の同期生産の深化

杉山亮平（日産自動車九州（株） 工務部生産計画課）

Sugiyama Ryohei (Nissan Motor Kyushu)

## 1. 日産自動車九州の概要

日産自動車九州（以下 NMK：Nissan Motor Kyushu）は 1975 年に自動車メーカーとして初めて九州に進出、2015 年に 40 周年を迎えている。1976 年からは車両生産を開始し、累計 1500 万台を達成し地域経済へ貢献するとともに、地域・従業員・関係サプライヤーと成長としてきている。1977 年から完成車両の輸出を開始、これまで世界 180 か国以上に輸出をしてきた。また、資材・部品調達の課題であったサプライヤーの九州地区への進出もこの頃より始まった。

現在では隣接する日産車体九州と合わせて年間 60 万台以上を生産しており、九州地区の自動車メーカーとして No1 の台数であり、日産自動車の国内生産の 6 割以上を九州が賄っている。

## 2. 同期生産の目指す姿と特徴

同期生産のありたい姿は、「商品開発のパイプライン」と「受注～納車のパイプライン」の両面からお客様に同期していく事である。

「商品開発のパイプライン」は商品開発や試作に加え、工程設計などの生産準備から成る。「受注～納車のパイプライン」はサプライヤーや輸送を含むすべての生産活動が対象となる。この 2 つのパイプラインのリードタイムを徹底的に短くしていく事でお客ニーズやお客情報へ同期をしていく事を目指している。

## 3. 日産自動車九州の同期生産の取り組み

NMK では同期生産で定義された 5 つの領域それぞれで活動を行っている。

- （1）第 1 領域のメインラインでは生産性向上や同期生産 KPI 改善の活動を行っている
- （2）第 2 領域の内製部品では車両の確定順序計画に基づき、生産・供給を行っている。
- （3）第 3 領域ではサプライヤーとの同期化で、近接化やオン・インサイト化を実施、また部品調達の戦略的改善やサプライヤーとの共同活動 THANKS もこの領域での活動である。
- （4）第 4 領域は完成車輸送との同期化でダイレクトスタンバイなどを実施している。
- （5）第 5 領域では販売の同期として、お客様の潜在的な要望や不満の声をマーケット QRQC として日々販売会社との実施している。

今回の報告では NMK の同期生産の取り組みとして、本学会のテーマに即し「部品調達」の具体的な取り組みについて紹介をしていく。NPW では工場（生産ライン）とサプライヤーの距離が近いほど同期度が高いと考えており、同期度が高いという事は様々な無駄を排除できると考えている。よって高い同期度をめざし、サプライヤーと共に同期生産を日々深化させている。

九州地区は九州域内の競争力あるサプライヤーが多く存在している。また距離的には関東よりも近い韓国にも巨大な生産台数を誇る韓国自動車メーカーに納入するサプライヤーが多数存在してお

り、NMK ではこの地理的優位性を最大限活用すべく地場化や韓国物流（フェリーを使用した最適物流）にチャレンジをしている。

こういった様々な生産・物流活動を行う事で品質・コストで海外生産拠点に対する優位性を維持していく活動を NMK では日々実践しており、本学会で紹介させて頂く事になった。

## **備考**

弊社の活動におけるデータについては社外秘である為、本予稿には掲載出来ない事を了承頂きたい。